

『アルバ うつくしいうみをまもった100さいのさかな』

ララ・ホーソン／作・絵 新沢としこ／訳 石垣幸二／監修 教育画劇  
オレンジ色の魚アルバは、海の中で楽しく暮らしていました。ある時からサンゴや魚の仲間が減り、缶やペットボトルが海の中に混ざって来ました。ある日、アルバはペットボトルのなかにある真珠を見つけました。それをとろうとなかに入ると、たいへん！なかから出られなくなりました…。



『タコとイカはどうちがう？ いきものくらべるしゃしんえほん』

みぬみずりょう／写真 池田菜津美／文 杉本親要／監修 ポプラ社  
クニャクニャした形をしたタコとイカ。とても似ていますが違う種類の生き物です。体の色や形を変えて、身を守るタコ。体を光らせて太陽の光にとけこみ、身を守るイカ。体のしくみや子育ての仕方など、それぞれの特徴について紹介しています。



『鉄道のひみつ The secrets of railway』

谷藤克也／監修 小学館  
電車や新幹線、蒸気機関車やモノレールなど、鉄道に使われている車両にはたくさんの種類があります。電気やエンジンなど動かす力もそれぞれ違います。どのようなしくみで鉄道が走るか、車体のしくみはどんなふうになっているか、鉄道のすべてを知ることができます。ひのき風呂がある車両など、おもしろい電車も紹介しています。



『しらべるちがいのずかん』

おかべたかし／文 やまでたかし／写真 東京書籍  
生たまごとゆでたまごを見わけることができるかな。うく氷としずむ氷があるのはどうしてかな。日本とアメリカのゆきだるまは2段と3段で違うのはどうしてかな。さまざまな似ているもの同士をくらべて、そのちがいについて知ることができます。

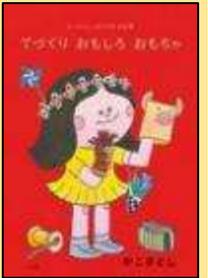


しもぎょう  
としょかんだより  
2021 ふうゆ

1年生  
2年生

『てづくりおもしろおもちゃ かこさとしあそびの玉手箱』

かこさとし／著 鈴木万里／監修 小学館  
ミカンの皮でタコ、厚紙で手足が動く子犬など、身近にあるものを使って作ることができるおもちゃを紹介しています。長い間愛されてきたおもちゃです。ぜひ、おうちの人に、どんな風に遊んだかを聞いてみてください。



『子育てがんばる、カメムシのおかあさん ベニツチカメムシとポロポロノキ』

新開孝／写真と文 小学館  
てんとう虫のような模様のベニツチカメムシ。どんな風に卵をうみ、育てるのでしょうか。なんと100個の卵をうみます。生まれた幼虫に、自分の体の中から出す液体を吸わせませます。成長すると、自分より1.5倍大きい実を何度も運んで食べさせてあげます。一生懸命子育てしている様子がわかりやすく紹介されています。



『モノのはじまりえほん』

荒俣宏／監修 ふわこういちろう／イラスト 日本図書センター  
この世のどんなモノにも『はじまり』があります。たとえば、ラムネ。アメリカのレモネードがなまって「ラムネ」になりました。江戸時代の人は最初、栓をあけるときのぽん！という音を鉄砲と思ってしまったようです。この他にも、すもやトイシなど様々なモノのはじまりがおもしろく紹介されています。



『子どもの本で平和をつくる イエラ・レップマンの自ざしたこと』

キャシー・ステインソン／文 マリー・ラフランス／絵 さくまゆみこ／訳 小学館  
アンネリーゼのおなかはぐうぐうなっています。戦争で、町がポロポロになり食べ物が足りていません。ある日、図書館に行くとそこで素敵な絵本たちと出会いました。頭の中に色々な世界がうまれたのです。そして、やる気や勇気が出てきました。絵本の力を信じた人たちのおはなしです。



## 『しんぱいせんせい』

北川チハル/作 大野八生/絵 佼成出版社

まゆげをハの字にして、「だいじょうぶかいなあ」がくぐせのしんぱい先生ことしんぺい先生。自分の気持ちをうまく言えないたつやといっしょに、クラスの遠足で動物園に行きました。動物園を見学していると雨が降ってきました。あれ？先生の持ってきた傘がありません！先生、だいじょうぶかいなあ。



## 『れんこちゃんのさがしもの』

戸森しるこ/作 スケラッコ/絵 福音館書店

料理好きのれんくんが夕飯の準備で、れんこんを切りました。すると「こんにちは。れんこちゃんよ！」と、わぎりのれんこんが喋りました！れんこちゃんは煮物になりたくなくて、タイヤやボタンになりたいと言いました。それにはちゃんと理由があったのです。



## 『おさるのゆめ』

いとうひろし/作・絵 講談社

南の島に住んでいるおさるは、朝おきてごはんを食べて、木のぼりやけづくろいをして、夜になったらねむります。そしてゆめをみました。ゆめの中でもおさるです。南の島に住んでいます。朝おきてごはんを食べて、きのぼりやけづくろいをして、夜になったらねむりました。そして、またゆめを見ました…。



## 『プンスカジャム』

くどうれいん/作 くりはらたかし/絵 福音館書店

もう、もうもう。ハルくんは怒っています。怒ったまま道を歩いていると、パン屋がありました。のれんに「あなたのプンスカ、ジャムにします」と書いています。すると中からおばあさんが顔をだして言いました。「りっぱなプンスカ顔！そのプンスカでジャムを作りましょう」ほんとにそんな事ができるのでしょうか。



## 『シミちゃん』

吉野万理子/作 北澤平祐/絵 くもん出版

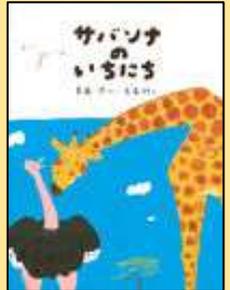
ある日まーくんのお母さんの顔にある、あまつぶの形をしたシミが、ほっぺたからつるとすべりおちました。シミちゃんは「マスクをすると、外が見えなくてつまらないだもん！」と、好きな所へ行ってしまうのですがハチやくモにつかまり、大騒ぎです。シミちゃんはこのままだこかへ行ったきりなのでしょうか。



## 『サバンナのいちにち』

さいとうひろし/作 高島純/絵 講談社

朝、サイは水を飲みに行きます。その後「よっしゃー、いくぞ！」とすごいスピードで走ります。それをまちかまえているのは、みつ子のヒョウです。だれが一番そこでふんばれるかためています。そして水の中で、もう一頭勝負してる動物もいます。サバンナに住む動物たちの一日の様子が描かれているお話です。



## 『石ころのスープ トルコのはなし』

ジュディス・マリカ・リバーマン/文 セイネップ・オザタライ/絵  
こだまともこ/訳 光村教育図書

トルコに、けちんぼうばかりが住んでいるけちけち村がありました。ある日、お腹をすかせた旅人が村へやってきて、村人に食べ物を与えるようお願いしましたが断られてしまいました。考えた旅人は、「それでは、わたしがとびきりおいしい石ころのスープをつくってみなさんにごちそうしましょう」と言いました。さあ、どんなスープができるのでしょうか。



## しもぎょうとしょかん

〈場所〉

下京区新町通松原下る富永町110-1

下京 修徳ふれあい福祉会館4階

〈開館時間〉

月・水～金曜日

午前9時半～午後7時（しばらくの間）

土・日曜日・祝日

午前9時半～午後5時

（火曜日はおやすみ！）